

研 修 区 分 表

令和4年5月26日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6			6	(到達目標) 研修に先立ち、これからの介護が目指すべきその人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境について、介護職がどのような環境で、どのような形で、そのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	(講義の内容) ○介護保険サービス(居宅、施設) ○介護保険外サービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	(講義・事業所見学の内容) ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際サービス提供現場の具体的なイメージ(視聴覚教材の活用、現場職員の具体的なイメージ) ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9			9	(到達目標) 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。
(1) 人権と尊厳を支える介護	3			3	(講義の内容) (1) 人権と尊厳の保持 ○個人としての尊重 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護 (2) ICF 介護分野におけるICF (3) QOL ○QOLの考え方 ○生活の質 (4) ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法 ○高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業

(2) 自立に向けた介護	3	3	<p>(講義の内容)</p> <p>(1) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性／個別ケア ○重度化防止 <p>(2) 介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防の考え方 <p><演習の実施方法></p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
(3) 人権に関する基礎知識	3	3	<p><講義の内容></p> <p>(1) 人権に関する基本的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権の考え方 ○同和問題等
3 介護の基本 (6 時間)	9	9	<p><到達目標></p> <p>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</p> <p>介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</p>
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	3	<p><講義の内容></p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護と施設介護サービスの違い ○地域包括ケアの方向性 <p>(2) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重度化防止・遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○自立した生活を支えるための援助 ○根拠のある介護 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種からなるチーム <p>(3) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担
(2) 介護職の職業倫理	2	2	<p><講義の内容></p> <p>(1) 職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2	<p><講義の内容></p> <p>(1) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ○リスクとハザード

				<p>(2) 事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメント ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ○情報の共有 <p>(3) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ○「感染」に対する正しい知識
(4) 介護職の安全	2		2	<p><講義の内容></p> <p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の健康管理が介護の質に影響 ○ストレスマネジメント ○腰痛の予防に関する知識 ○手洗い・うがいの励行 ○手洗いの基本 ○感染症対策 <p><演習の実施方法></p> <p>正しい手洗いの方法について、実践する。</p>
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	11.5		11.5	<p><到達目標></p> <p>介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p>
(1) 介護保険制度	5		5	<p><講義の内容></p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアマネジメント ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推進 <p>(2) 仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 <p>(3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○財源負担 ○指定介護サービス事業者の指定
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3.5		3.5	<p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念

(3) 障害者総合支援制度およびその他の制度	3		3	<p><講義の内容></p> <p>(1) 障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念 ○ICF（国際生活機能分類） <p>(2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定 <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業 <p><演習の実施方法></p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します。</p>
5 介護におけるコミュニケーション技術	6		6	<p><到達目標></p> <p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。</p>
(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3	<p><講義の内容></p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語コミュニケーションの特徴 <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズのデマンドの違い <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術

				<p>(演習の方法)</p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
(2)介護におけるチームコミュニケーション	3		3	<p><講義の内容></p> <p>(1)記録における情報の共有化</p> <p>○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</p> <p>○介護に関する記録の種類</p> <p>○個別援助計画（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）</p> <p>○ヒヤリハット報告書</p> <p>○5W1H</p> <p>(2)報告</p> <p>○報告の留意点</p> <p>○連絡の留意点</p> <p>○相談の留意点</p> <p>(3)コミュニケーションを促す環境</p> <p>○会議</p> <p>○情報共有の場</p> <p>○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）</p> <p>○ケアカンファレンスの重要性</p> <p><演習の実施方法></p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p> <p>（グループに分かれて疑似カンファレンスを実施）</p>
6 老化の理解	6		6	<p><到達目標></p> <p>加齢・老化に伴う変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p>
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	3		3	<p><講義の内容></p> <p>(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>○防衛反応（反射）の変化</p> <p>○喪失体験</p> <p>(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>○身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>○咀嚼そしゃく機能の低下</p> <p>○筋・骨・関節の変化</p> <p>○体温維持機能の変化</p> <p>○精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>(演習の方法)</p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
(2)高齢者と健康	3		3	<p><講義の内容></p> <p>(1)高齢者の疾病と生活上の留意点</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ○骨折 ○筋力の低下と動き・姿勢の変化 ○関節痛 （2）高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患） ○循環器障害の危険因子と対策 ○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎 ○病状の小さな変化に気付く視点 ○高齢者は感染症にかかりやすい
7 認知症の理解	7.5		7.5	<p><到達目標></p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している</p>
(1) 認知症を取り巻く状況	2		2	<p><講義の内容></p> <p>認知症ケアの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パーソンセンタードケア ○認知症ケアの視点（できることに着目する）
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2		2	<p><講義の内容></p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の定義 ○物忘れとの違い ○せん妄の症状 ○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ○治療 ○薬物療法、認知症に使用される薬
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2		2	<p><講義の内容></p> <p>（1）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の中核症状 ○認知症の行動・心理症状（BPSD） ○不適切なケア ○生活環境で改善 <p>（2）認知症の利用者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけない ○相手の世界に合わせる ○失敗しないような状況をつくる ○すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ○身体を通じたコミュニケーション ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察す

				る ○認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	1.5		1.5	<講義の内容> ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減（レスパイトケア）
8 障害の理解	5.5		5.5	<到達目標> 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
(1) 障害の基礎的理解	2		2	<講義の内容> (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類 ○ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	2		2	<講義の内容> (1) 身体障害 ○視覚障害 ○聴覚、平衡機能障害 ○音声・言語・咀嚼機能障害 ○肢体不自由 ○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症・気分（感情）障害・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心理の機能障害
(3) 家族の理解、かかわり支援の理解	1.5		1.5	<講義の内容> 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援 ○介護負担の軽減
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	68	7	75	<到達目標> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を、ロールプレイを通して習得する。
【Ⅰ 基本知識の学習】	11		11	
(1) 介護の基本的な考え方	3		3	<講義の内容> ○倫理の基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介

				<p>護の排除)</p> <p>○法的根拠に基づく介護</p> <p>〈演習の方法〉</p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
(2)介護に関するこころのしくみの基礎理解	4		4	<p>〈講義の内容〉</p> <p>○学習と記憶の基礎知識</p> <p>○感情と欲求の基礎知識</p> <p>○自己概念と生きがい</p> <p>○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</p> <p>○こころの持ち方が行動に与える影響</p> <p>○からだの状態がこころにあたえる影響</p> <p>〈演習の方法〉</p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
(3)介護に関するからだのしくみの基礎理解	4		4	<p>〈講義の内容〉</p> <p>○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</p> <p>○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用</p> <p>○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</p> <p>○自立神経と内部器官に関する基礎知識</p> <p>○こころとからだを一体的に捉える</p> <p>○利用者の様子の普段との違いに気づく視点</p> <p>〈演習の方法〉</p> <p>グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッション等を適宜実施します</p>
【Ⅱ生活支援技術の学習】	46		7	53
(4)生活と家事	4		4	<p>〈講義の内容〉</p> <p>○生活支援としての家事サービス</p> <p>○高齢者に対する生活支援の意味するところ</p> <p>○「生活」の再構築という視点</p> <p>○生活の大切な要素</p> <p>○残された能力を活用し、生活能力を高める介護の知識・技術</p> <p>○認知症高齢者への関わり</p> <p>○日々を充実することで生じてくる意欲</p> <p>○普通に暮らすということ</p> <p>○くつろいで過ごすことのできる条件</p> <p>○家事援助の方法</p> <p>○買い物支援のための基礎知識</p> <p>○調理（食事）支援のための基礎知識</p> <p>○洗濯・衛生管理支援のための基礎知識</p> <p>○清掃支援のための基礎知識</p>

(5) 快適な居住環境整備と介護	3		3	<p><講義の内容></p> <p>快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p><講義の内容></p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身じたく ○整容行動 ○洗面の意義・効果 <p><実技演習の内容></p> <p>グループに分かれてベッドを使用し、衣類の着脱や清拭、足浴など</p>
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9		9	<p><講義の内容></p> <p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者と介助者双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用 ○残存能力の活用、自立支援 ○重心・重力の働きの理解 ○ボディメカニクスの基本原則 ○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ○移動介助（車いす、歩行器、つえ等） ○褥瘡予防 <p><実技演習の内容></p> <p>車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗外へ出での移動介助（車いす、歩行器、つえ等）</p>
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p><講義の内容></p> <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の石城 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢

				<ul style="list-style-type: none"> ○咀嚼・嚥下のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備（時間・場所等） ○食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性肺炎の予防 〈実技演習の内容〉 ○嚥下体験（嚥下機能を食事をして感じる体験） ○食事介助の実際 ○とろみを活用した水分摂取 ○口腔ケアデモンストレーションと相互演習、航空戦場、歯磨き、粘膜、舌ケア、口腔体操など
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<ul style="list-style-type: none"> 〈講義の内容〉 ○入浴・清潔を保つことの意義と目的 ○入浴、清潔を保つことに関わるからだのしくみ ○入浴補助用具 ○入浴介助のポイント（ロールプレイ） ○部分浴（ロールプレイ） ○清拭（ロールプレイ） ○整容（ひげ剃り、整髪、鼻・耳掃除、爪切り） ○こころの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響 ○からだの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響 〈実技の内容〉 ○入浴介助の実際（一般浴、機械浴） ○ケリーパッドを利用した洗髪介助 ○足浴の介助
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<ul style="list-style-type: none"> 〈講義の内容〉 ○排泄とは ○排泄が及ぼす3つの側面 ○おむつ着用のマイナス面：排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ○おむつは最終手段 ○排泄介護の基本視点は尊厳の保持と自立支援 ○排泄環境整備 ○排泄用具の活用方法（ロールプレイ） ○爽快な排泄を阻害するこころの要因 ○爽快な排泄を阻害するからだの要因 〈実技演習の内容〉 ○排泄介護の実際（ポータブルトイレ、尿器） ○おむつの着脱の介助
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3		3	<ul style="list-style-type: none"> 〈講義の内容〉 ○日常生活の生活パターン ○睡眠とは

				<ul style="list-style-type: none"> ○睡眠障害 ○睡眠障害時の介助と援助方法 ○寝室の環境 ○寝具・就寝時の衣類 ○福祉用具の活用 ○快い睡眠を阻害するところとからだの要因 ○就寝時の支援 <実技演習の内容> ○適切なシーツ交換法、安楽な姿勢の保持、褥瘡予防の実際等 	
(12) 死にゆく人に関したところ とからだのしくみと終末期介護	3		3	<ul style="list-style-type: none"> <講義の内容> ○死生観を育て利用者の死を受け止める ○終末期ケアとは ○高齢者が死にいたるプロセス ○利用者ニーズに寄り添う看取りの要件 ○死に向き合う高齢者の心理 ○看取りにおける介護職員の基本的態度 ○苦痛を和らげる ○緩和ケアのための環境づくり ○多職種間の情報共有の必要性 ○家族の苦痛緩和 ○遺族へのグリーフケア（悲嘆への支援） ○看取りにおける倫理観（望ましい言動と望ましくない言動） <演習の実施方法> ○死に至る過程の事例をもとに、看取りの場面で行う支援について話し合う 	
(13) 施設実習			7	7	講義や演習で学んだ知識・技術を、実際の介護の現場で実践し、検証することを目的とする。
【Ⅲ生活支援技術演習】	11			11	
(14) 介護過程の基礎的理解	3.5			3.5	<ul style="list-style-type: none"> <講義の内容> ○介護過程に基づく介護展開 ○介護過程の基礎的理解 ○介護過程の必要性 ○介護過程の流れ <演習の実施方法> グループに分かれ、介護過程の流れ（アセスメント、計画立案、実施、評価）について、事例をもとに検討する。
(15) 総合生活支援技術演習	7.5			7.5	<ul style="list-style-type: none"> <講義の内容> 事例概要から日常生活の状況や本人の思い、今後の支援の方向性を検討する。 認知症や麻痺、障害のある利用者への介護サービスにおける介護や支援のポイントを話し合う <実技の内容>

				<p>4つの事例を通して、具体的な介護内容や介護の留意点について考察する。</p> <p>①片まひ、失語症の方の食事介助、移乗、足浴</p> <p>②認知症の方の買い物、調理、入浴誘導から脱衣</p> <p>③自立度が高い方の失禁後の対応と更衣、洗身と浴槽の出入り、口腔ケア</p> <p>④寝たきり状態の方のおむつ交換、衣類の着脱、移乗</p>
振り返り（4時間）	5		5	<p><到達目標></p> <p>これまでの研修を振り返り、介護の現場に就業後の心構えやスキルアップについて理解する。</p>
(1) 振り返り	3		3	<p>（講義）</p> <p>研修で学んだことをグループワークを通して整理する</p>
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2		2	<p><講義の内容></p> <p>○就業後、福祉のプロになるために心がけることやすべきことを理解する。</p> <p>〈演習〉</p> <p>グループに分かれてディスカッションなど</p>

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。